

ジュビロ磐田 × 御前崎市

Jリーグ新シーズン開幕前の7月17日から26日までの10日間、ジュビロ磐田の夏季トレーニングキャンプ地に御前崎市が選ばれました。キャンプの舞台となったのは、静岡カンントリー浜岡コース&ホテルに併設される「御前崎ネクスタフィールド」。質の高い天然芝に加え、周囲を木々で囲んだ環境が整備されているため、自然の中で集中して競技に取り組むことができます。



2019年のラグビーワールド杯では南アフリカとジョージアのキャンプ地となり、2021年の東京五輪前にはサッカー日本代表U-24なども使用した誇れるグラウンドです。

選手は、新シーズンに向けてトレーニングに励んだほか、地域やまちの人と触れ合い、御前崎市の魅力を堪能。この夏、ジュビロ磐田は御前崎市と共に、次のステージへの一歩を踏み出しました。

omaezaki camp

2026.7.17-26 御前崎ネクスタフィールド



This is ジュビロ磐田給食

Júbilo's school lunch



7月21日、ジュビロ磐田を応援する取り組みの一環として、市内小中学校の給食に「ジュビロ磐田応援フルーツゼリー」が登場しました。ゼリーはジュビロ磐田のチームカラーであるサックスブルーをイメージしたサイダー味。ゼリーの他にフルーツも入っており、見た目も楽しめる一品になりました。また、「白星(勝ち)をあげてほしい」という願いを込め、白い星型のゼリーも添えられています。子どもたちは、ジュビロカラーのゼリーを味わい、ジュビロ磐田への親しみや応援する気持ちを高めました。給食を通じて、地元クラブを身近に応援する機会となりました。



奥柿 涼さん 第一小5年

お代わりしてしまうほど美味しかったです！J1昇格を目指すジュビロ磐田を応援したくなりました。頑張れジュビロ磐田！



池田 偉生さん 第一小5年

サックスブルーのサイダーゼリーを通じてジュビロ磐田を身近に感じることができました。僕は、乾貴士選手の活躍を期待しています！

This is 公開練習

Public Training



Sign



cheese!

地域住民にジュビロ磐田を身近に感じてもらうため、キャンプ中の5日間、公開練習が実施されました。選手の努力を一目見ようと、5日間で2633人のファンが来場。試合観戦とは一味違う、選手たちの迫力あるプレーを間近で見学しました。公開練習後には、抽選で選ばれたファンを対象にファンサービスを実施。当選者は、練習を終えた選手からサインをもらったり、一緒に記念写真を撮ったりと、選手との交流を楽しみました。憧れの選手から直接サインをもらった子どもたちは嬉しそうな表情を見せ、和やかな雰囲気になりました。選手をより身近に感じ、ジュビロ磐田への応援の気持ちをさらに深める、ファンにとって思い出深い時間となりました。

This is ゴルフ場 ウォーキングイベント

Early morning walk

市民の運動習慣のきっかけ作りを目的としたウォーキングイベントが7月18日の朝6時、静岡カントリー・浜岡コース&ホテルのゴルフ場で開かれました。出発式には選手が駆けつけ、95人の参加者と記念撮影やハイタッチを交わしました。参加者は、選手との交流を楽しんだ余韻を感じながら、1時間ほどかけて景観の良いゴルフ場をウォーキングし、心地よい汗を流しました。



This is セレモニー

Ceremony

クラブ一同は、7月17日の午後に御前崎入り。17日の歓迎式では、市・商工会・観光協会と静岡カントリー・浜岡コース&ホテルから、特産品である遠州夢咲牛やアローマメロンなどの記念品が贈呈されました。



This is 道の駅風のマルシェ 御前崎一日駅長

One-day stationmaster

ジュビロ磐田の元選手で、現在はクラブと地域やファンをつなぐ活動などに取り組む山田大記CRO(クラブ・リレーションズ・オフィサー)が7月18日、「道の駅風のマルシェ御前崎」の一日駅長を務め、山田CROを一目見ようと多くのファンが道の駅を訪れました。

山田CROは、道の駅来訪者に道の駅に並ぶ地元の特産品やおすすめ商品を紹介し、御前崎の魅力をPR。道の駅併設の「ミルクスタンドOMAEZAKI」でおすすめの「海色しおソフトクリーム」を購入し、御前崎ならではの味を楽しみました。さらに、ジュビロ磐田のマスケットキャラクターであるジュビロくん&ジュビィちゃんも登場。子どもから大人まで多くの来場者が記念撮影やふれあいを楽しみました。

18日から20日までの3日間限定で、特別記念きつぷの配布やジュビロ磐田のグッズ販売も実施。多くのファンが来場し、ジュビロ磐田と御前崎の魅力を身近に感じました。来場者は、「元日本代表の山田CROに会えてうれし。貴重な一日になった」と笑顔を見せました。ジュビロカラーに彩られた道の駅は、訪れた人たちの笑顔で溢れていました。





提供・ジュビロ磐田

松原 后選手 Matsubara Ko

サップに憧れを持っていたので、体験できてうれしかったです。普通のサップとは違い、ビッグサップはただ漕いでいるだけでは進まないため、ターンするときはみんなで声を掛け合ったり、ペースを合わせたりしました。チームワークが求められるスポーツだと感じました。相手を見ながらタイミングを合わせたり、声かけをする点は、サッカーと似ていると思います。サップを通じていい勉強になりました。

海もとても綺麗で、気持ちよかったです。もっといろいろなマリンスポーツを体験してみたいと思いました。



川島 永嗣選手 Kawashima Eiji

サップを見たことはありましたが、実際に体験したことはなかったのいい経験になりました。チームで力を合わせて漕ぐビッグサップはチームワークが求められるし、時期的なものもあってかなり気持ちよく体験できました。

ジュビロ磐田の選手は、それぞれ性格や背格好などの特徴が違うので、力を合わせなければ上手に進みませんでした。良いチームビルディングができたと思います。

レースでは1位を目指してみんなで漕ぎました。楽しかったのでもた御前崎の海でサップを体験したいです。

This is & Big Sup & Beach Clean

ビッグサップ体験・ビーチクリーン



チームビルディングを図ることを目的としたビッグサップ体験が7月20日、マリナーパーク御前崎で実施されました。

体験に先立ち、選手たちはビーチクリーンを実施。御前崎に流れ着いたごみを拾いながら、海岸環境や漂着ごみの現状について考えました。選手は「環境を大切にしないといけない」と話しながら仲間と協力して海岸のごみを拾いました。

ビッグサップ体験では、大きなボードに複数人で乗り、力を合わせてパドルを漕ぎながら海の上を進みました。チーム対抗のレースも実施され、選手たちはゴールを目指して声を掛け合っている間にパドルを動かしました。レース後半では、風の

影響でバランスを崩し、サップから落ちてしまう選手が続出。それでも落ちた仲間を引き上げ、一生懸命ゴールを目指しました。

自分一人だけでは上手く進まないビッグサップを息を合わせてゴールまで漕ぎ続けた選手たち。息を合わせるこの大変さを体感しながら、御前崎ならではのマリンスポーツを楽しみました。ユウリ・ララ選手は、「チームの助け合いが必要になる競技だと感じた。良いチームビルディングができたと思う」と話しました。

この体験をきっかけにチーム内の絆がより深まり、試合での勝利につながることを期待されます。



まるよ茶屋で一服

練習の合間にジュビロ磐田の選手がまるよ茶屋を訪れ、つゆひかりラテなど御前崎の特産品を使用したドリンクを味わいました。



まるよ茶屋
岡村 まゆみ さん

普段テレビで見るプロ選手に、市の特産品を当店自慢の商品として味わってもらえてうれしいです。



ホテルでの食事

ホテルの食事では、遠州夢咲牛や遠州黒豚、アローマメロンなど地元の特産品を使用。野菜も全て地元で採れたものが使用され、御前崎港で水揚げされた魚介類も提供されました。選手たちは御前崎の食材からエネルギーをチャージし、練習に励みました。



しずおか御前崎茶商協同組合
増田 剛巳 理事長

生産者や市などお茶に関わる人たちと協力し、良質なお茶を多くの人に届けられるよう取り組んでいます。

まるよし増田
増田 達也 さん

天候や気温の変化を見ながら、その年に合った生産方法でお米を栽培をしています。お客さんの喜ぶ顔を見ることがうれしいです。



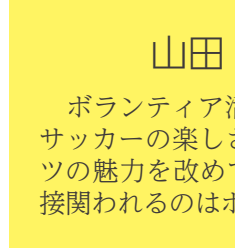
まさのり
下島 正識 コーチ 御前崎サッカー
スポーツ少年団

プロの選手から直接指導を受けることができ、子どもたちにとって貴重な経験になりました。これを機に、子どもたちにもっとサッカーを好きになってもらいたいです。



ゆい か
浦田 唯花 さん 第一小3年

選手と一緒にサッカーができてうれしかったです。相手にボールを取られない方法を教えてもらったので、実践できるように頑張りたいです。



れ な
山田 怜奈 さん 浜岡中3年

ボランティア活動中は、選手の熱気やサッカーの楽しさを間近で感じ、スポーツの魅力を改めて感じました。選手と直接関われるのはホームタウンの特権です。



07 This is サッカー教室 soccer school

ジュビロ磐田の選手によるサッカー教室が7月26日、御前崎ネクスタフィールドで開催されました。同教室は、小笠掛川地区サッカー協会登録チームの8チームを対象に実施。小学生約100人が参加し、御前崎市からは、御前崎サッカースポーツ少年団が参加しました。

教室内では、ミニゲームを実施し、ゲームを通じて実践方式でドリブルやディフェンスの上達方法を選手から学びました。憧れのプロ選手から直接指導を受けられる貴重な機会に、児童たちは目を輝かせながら練習に取り組みました。

閉会式では、特に上達が見受けられた児童へ選手からサイン入りのユニフォームをプレゼント。憧れの選手からのプレゼントに、児童は嬉しそうな笑顔を見せました。

教室の開催に合わせて職場体験も実施され、浜岡中学校と御前崎中学校の生徒7人が、サッカー教室の運営補助に取り組みました。普段は観客としてスポーツを楽しむ側の生徒も、選手やスタッフと一緒に会場の準備や進行の支援など教室の運営を支える仕事を体験。スポーツイベントが多くの人々の支えによって成り立っていることを体感し、スポーツを「支える側」の仕事に身近に感じる機会となりました。



Júbilo 1昇格へ、 突き進め。

令和5年に御前崎市がジュビロ磐田のホームタウンに加入して3年。この夏、ついに御前崎市でのキャンプが実現しました。秋葉忠宏監督は「充実したキャンプになった。素晴らしい環境で練習できたこと、そして多面で支えてくれた御前崎市の皆さんにとっても感謝しています」と話しました。

御前崎市とジュビロ磐田が一つになった10日間。市民が選手を身近に感じるにつれて、まちは少しずつジュビロカラーに染まりました。選手に憧れ、声援を送り、勝利を喜び、悔しさを分かち合う。そんな瞬間が、ホームタウンのつながりを育みます。

このつながりは、まだ始まったばかり。10日間で生まれた出会いや絆を力に、共に歩み続けます。このまちに根付き始めたジュビロカラーを、もっと鮮やかに。



This is kids press conference

子ども記者会見

静岡放送（SBS）の夏の特別企画「子ども記者会見」が7月23日、静岡カントリー浜岡コース&ホテルで開催されました。

会見には、乾貴士選手と川合徳孟選手が登場。御前崎サッカースポーツ少年団の5・6年生が両選手にインタビューをしました。子どもたちは、憧れの選手を前に少し緊張した様子を見せながらも、サッカーの上達方法や選手のことなどさまざまな質問をしました。

児童は、選手から直接話を聞き、サッカーへの夢を膨らませました。



てっしん
細田 哲慎 キャプテン
浜岡東小6年

選手のこれまでの努力を直接聞くことができ、自分ももっと成長したいと思いました。いつか同じピッチに立てるよう頑張ります！



This is 園児の応援

kids cheer on Júbilo

高松保育園の園児16人が7月24日、静岡カントリー浜岡コース&ホテルで練習前の選手を応援し、御前崎ネクスタファイードへ送り出しました。

今回のお見送りは、公開練習時に同園の駐車場を一般来場者用に貸し出したことから実現。園児たちはミーティング前の選手に、「1昇格を目指して頑張ってください！」と大きな声でエールを送りました。



激励を受けた選手は、お礼にジュビロ磐田のキャップを園児たちにプレゼント。園児たちは嬉しそうにキャップを受け取り、ハイタッチで選手を見送りました。園児の元気いっぱい、純粋な姿を見た選手の顔には自然と笑みがこぼれ、和やかな雰囲気になりました。



きぬよ
栗林 絹代 園長

選手は、子どもたちを前に笑顔でハイタッチをしたり、抱き上げてくれたりしました。子どもたちが喜ぶ姿を見れてうれしかったです！

御前崎キャンプの様子はジュビロ磐田公式YouTubeをチェック！



抽選でジュビロ磐田限定グッズのタオルをプレゼント！応募はこちら

